

<競技上の注意>

- 1 競技は、(公財)日本ソフトテニス連盟ハンドブックにより、すべて7ゲームマッチで行う。
- 2 選手到着票は、所定事項記入の上、2月12日(日)・13日(月)両日とも、8時30分までに受付に提出する。
- 3 全日本高等学校選抜ソフトテニス大会への選考方法は、以下の通りである。
 - (1) 各県選考会第1位校によるリーグ戦(以後、Aリーグと称する)と、第2位校によるリーグ戦(以後、Bリーグと称する)により北信越代表校3校を選出する。
 - (2) Aリーグ1位・2位の学校には、北信越第1・第2代表校として全日本高等学校選抜ソフトテニス大会への出場権が与えられる。
 - (3) Aリーグ3位校は、Bリーグ1位校と第3代表決定戦を行い、勝者は全日本高等学校選抜ソフトテニス大会への出場権が与えられる。
 - (4) A・B両リーグの試合は原則2面展開で行い、3組の点取り対抗戦で2点以上を得たチームを勝者とする。ただし、リーグでは3対戦目まで行い、代表決定戦は2点先取した方を勝者とする。
 - (5) 進行の状況により、リーグ・代表決定戦とも3面展開で行う場合がある。また、リーグの全試合が終了する前に、代表決定戦を始める場合がある。
- 4 団体戦のオーダーは対戦ごとに提出する。ただし、第1試合(1-2)と第2試合(3-4)のオーダーは、受付時に選手到着票と共に提出する。第3試合(2-5)のオーダーは第1試合終了後、速やかに提出する。第4試合以降は、各試合終了後、速やかに提出する。
- 5 コート割並びに進行予定表は、プログラムに掲載した通りとするが、場合によってはコート変更をすることもある。
- 6 試合球は、アカエムボール、ケンコーボール、ダンロップボールの選択制とする。対戦校、対戦ペアの選択球が異なる場合は、試合前の整列時にジャンケンで決定する。
- 7 ベンチは、団体戦・個人戦とも正審からみて左側を番号の小さい学校・ペアのものとする。トスは団体戦はコート上で、個人戦はコート主任席にて行う。
- 8 次の試合に出場する選手は、試合コート付近に待機し、自分の試合時は、試合の服装で整列すること。個人戦はコート主任席に集合すること。
- 9 審判について
 - (1) 団体戦：大会本部審判で行う。
 - (2) 個人戦：第1試合は大会本部審判で行うが、以後は敗者審判とする。ただし、準々決勝以降は、大会本部審判で行う。
- 10 監督・ベンチ入り指導者について(詳細は、大会実施要項参照)
 - (1) 団体戦において、ベンチ入りができるのは、監督1名のみとする。
 - (2) 個人戦においてベンチ入りができるのは、各県専門部長が認めた者とする。なお、ベンチ入り指導者の人数は4名以内で、出場するチーム数を越えてはならない。また、個人戦のベンチ入り指導者のコーチングについては、当該コートのみとする。
 - (3) 監督・ベンチ入り指導者は、必ず本部より渡されたIDカードを身につけなければならない。
 - (4) 選手は、団体戦では監督、個人戦ではベンチ入り指導者以外からのコーチングを受けることはできない。
- 11 対戦中、監督と選手は、所定のベンチ(又は椅子)に座って応援すること。また、威嚇的ポーズや遅延行為等のルールに反する行為は慎むこと。
- 12 出場選手は日本連盟既定のゼッケンを背中につける。必ず四隅を留めること。
- 13 選手変更は所定の用紙に記入の上、各県の委員長の承認を経て、大会当日の受付完了時まで提出すること。
- 14 プログラムのミスプリントは、受付時に所定の用紙を用いて大会本部へ提出すること。
- 15 各学校で出したゴミは、必ず各校の責任のもとで持ち帰ること。
- 16 大会速報の試合進行表をこまめに確認する等、充分注意すること。
- 17 部旗等は、観覧席コート側の壁に限り、かけてもよい。
- 18 ドーム内では、指定された場所以外でのボールを使った練習は禁止する。また、指定された場所であっても団体練習等で占有してはならない。
- 19 大会会場のコンセントを無断で使用してはならない。